中山間地域を未来へ繋ぐ活動に参加しませんか？

～ しがのふるさと支え合いプロジェクト ～

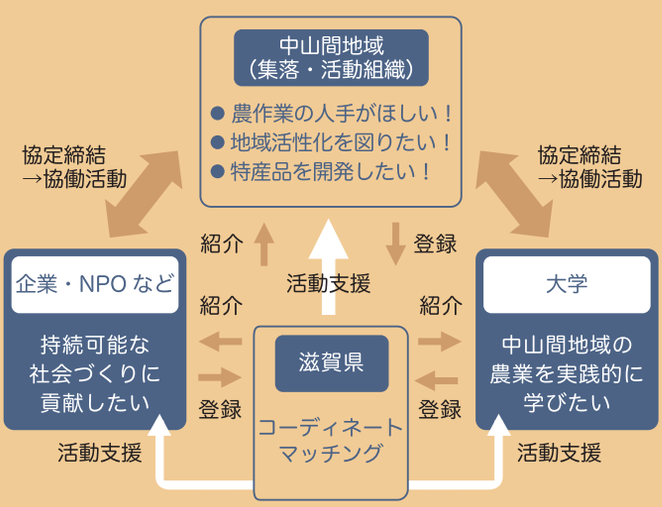
参加大学様 大募集！！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

未来へつなぐバトン

「中山間地域」とは、山間地とその周辺の地域をいいます。滋賀県では、県土の約 65% がこのような地域です。
農村は、食糧生産の場であるだけでなく、雨水を一時的に貯えて、洪水や土砂崩れを防いだり、たくさんの生き物を育みます。
また美しい農村の風景は、私たちの心を和ませる役割を果たしています。
近年、中山間地域では人口減少や高齢化の進行、農業の担い手不足などにより、耕作放棄地の増加が心配されます。
今後、住民の力だけでは地域の農業、農村を維持するのが厳しい状況になりつつあります。
都市部に住む人々にも様々な『めぐみ』をもたらす中山間地域を、みんなで守っていきませんか？
都市と農村、世代を超えた人々との交流を「しがのふるさと支え合いプロジェクト」を通して広げ、この大切な場所を未来へつなぎましょう！

プロジェクトのイメージ



【しがのふるさと支え合いプロジェクト】事業紹介

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」とは、中山間地域の活性化を目的に、地域の集落等と企業や大学、NPO法人等の皆さんが協働し、農作業や棚田の保全活動、都市農村交流活動などを行っていただく取組です。
県では、協働活動のコーディネートや、相手先とのマッチング、協定を締結し協働活動を行う団体への支援を行っています。
大津市の葛川（かつらがわ）まちづくり協議会は、令和元年に「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に登録し、地域活性化に向けた協定を締結して、農作業等の協働活動に協力してくれる大学や企業等を募集しています。

詳しくは
こちら

かつらがわ

大津市葛川まちづくり協議会の紹介

【アクセス】江若バス（堅田葛川線）JR 堅田駅発～細川（約 55 分）、
京都バス（10 系統）京阪出町柳駅～坊村（約 60 分）、京都東 IC～湖西道路真野 IC（無料）から 25 分

自然と歴史が調和するまち「葛川」

大津市最北端安曇川の上流域に沿って南北約14ｋｍもの細長く続く山村が葛川地区。福井県小浜と京都を結んだ鯖街道が通る。武奈ヶ岳や蓬莱山など比良山系に囲まれ、夏には登山・ハイキング客で賑わい、川では沢登りやイワナ・アユなどの渓流釣りも楽しめる。冬には多いときで１ｍほどの積雪があり、大変なこともあるが、それも静かで美しい。四季折々豊かな自然に恵まれながらも、市街地までは車で30分ほどのアクセスの良さ。また、比叡山回峰行を創始した相応和尚が建立した天台宗「明王院」を有し、回峰行の聖地となっている。毎年７月には回峰行者が訪れ、１０００年以上続く伝統行事「太鼓まわし」が行われている。葛川の人々が100ｋｇ以上ある太鼓を回し、行者が太鼓から飛び降りる珍しい行事であり、生き物や森林という自然と、人々が繋いできた歴史が調和する地域である。

危機感から生まれた新たな取り組み

葛川まちづくり協議会の宮嵜さんと山本さんからお話を伺った。葛川は、９集落から構成されていて130世帯、人口約230人が住んでいる。驚くことに、移住者が多く現在22組もの方が県内外から移住されている。聞くところによると、移住者が増え始めたのは約35年前からで、人口減少による危機感から受け入れをスタートしたそうだ。さらに、葛川小学校・中学校には、市内からバス通学している生徒や、県外から家族揃って移住する方もいるというから驚きだ。「小規模特任制度」という、個々に応じた細かな指導や、自然を生かした活動など特色を打ち出しており、葛川に通いたい！とやる気に満ち溢れたこどもたちが集まっている。そういった移住希望者の空き家整備は、地域のバックアップあってこそ成り立つ取り組みだ。山村は相対的に閉鎖的なイメージがあるが、登山客などの観光客はもちろん、地域をあげて移住者を受け入れる様子はまさしく未来に繋いでいくために必要な山村のあり方だと感じた。移住促進を進めている一方、耕作放棄地を利活用するため約二年前から獣害に強く、高冷地に適したリンドウ栽培をスタート。葛川まちづくり協議会の特産育成部会９人で取り組んでいる。現在は3カ所で栽培しているが、今後は地域外からのサポートも受けて、拡大していきたいという想いがある。うまくいけば収入源になり、地域へ還元することも可能だ。これが数年後、形になり地域を支えると思うと楽しみである。

「葛川まちづくり協議会」
事務局　宮嵜 源之 氏

葛川の魅力を知ってもらい、未来への協働活動を

「まずは葛川の自然、森の恵みを知ってもらいたい！」と話す山本さん。魅力を感じた上で、単年度ではなく毎年続けて協働活動してくれる大学を探している。来てもらえることになったら、ただ単に通うというよりも、葛川に自分たちの拠点を作ってもらうという意味で空き家を使って欲しいと思いがある。以前、学生が来た経験があり、それがきっかけで地域が生き生きとしたことがあるので、しがのふるさと支え合いプロジェクトでは大学との連携を希望している。「自然を楽しむところも、食事処もあるので、お手伝いにくるというより、まず楽しみに来て欲しいですね。」と宮嵜さん。ぜひ気軽な気持ちで来てもらいたい。そして葛川の魅力を知った上で空き家の整備や、リンドウの収穫や出荷、そして登山道整備や登山客のための特産物販売イベントなど、それぞれの得意分野を生かして一緒に楽しんで活動してもらいたいとワクワクしながら話してくれた。

「葛川まちづくり協議会」
特産育成部会長
山本 伊三郎 氏

お問い合わせ先　滋賀県農政水産部農村振興課　地域資源活用推進室
〒520-8577　滋賀県大津市京町４丁目１番１号
TEL：077-528-3963

詳しくはこちら